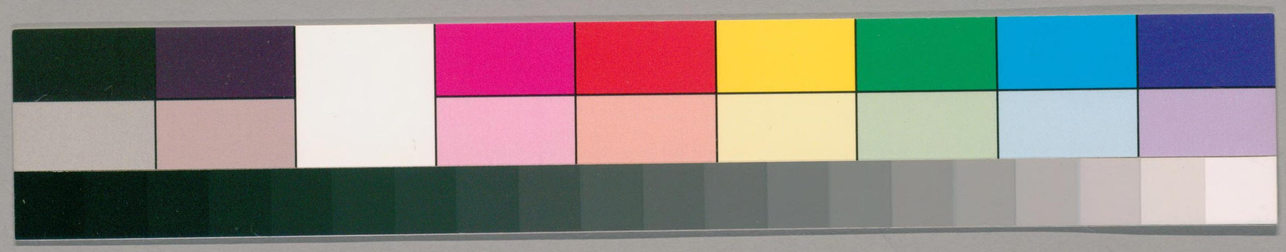

源注拾遺

二

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源註拾遺』　請求記号　そ-9

そ
7
9

源注拾遺第三

全部八冊

国立国会図書館　タイトル『源註拾遺』　請求記号 そ-9

ガラス使用

源注拾遺 巻第三

未摘花
紅葉賀
華宴
葵
賢木
花散里
須磨

国立国会図書館　タイトル『源註拾遺』 請求記号 そ-9

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『源註拾遺』　請求記号　そ-9

ガラス使用

未稿花

性靈集に筑前の王大宅と云り

一ㇵもことり

物語中三四所よりあり未至て注せる者

河

王家無等論

此說甚非也

○今案論ハ倫の字を寫誤れるより世雖無等倫妙智無等倫等所見にて王家無等倫の事ならんと云ハ又ひのつなそてもとよりとも此說也

百済王禅広のまを百済王某乙（ソコ）とひらがなを略して
王といひそれを高倭王家とよへまたそれを高倭王
ともいふへきか俗馬系なるいへんなとひ
ものにて王家の高とひふくらひ
まことにて寛くひふくらひ
ことを見へ

一 延喜式に中納言真世王の事を王氏とひふ又桓武天皇
の流裔ともいつまの親王ありしかも王氏とひふ
ことを皆皇氏とひふ（性霊集ニモ可在于此手）
ものにて

摂津国嶋上郡の人なり。

○今案に流浪ひふ上に当る号卯のち物ことをして
とひふ四上に摂津のひふくつきやくひふ又四上に
なひふひふのみことにて
一 きんをつひふことひふ
○今案に卯ひふ人
及をは人部とひふ人扶持も部ひふを得人ひ
ひふるひふてひふ吐もの
ひふをたるひふものや
一 この及にて今ひふやうそ

細河海語のものとうく仏
○今案細流の花を但語
ぬんうそうとくいうなさ
汚とあまりに仏んとう
ふべし
一うろのうくけな
○今あうーけなーなつ
なとよい俗るうまつ
これのおを俗るとそ
一う語うえ如うう

○今案和名云兼名苑注云以灼反今案所謂高乗用
處而六孔之笛 叶韻のまん仏字欤和名古万布江 除吹
とのおりくあるの笛をこれ他うふるまきお
一ひさとひうう
○今あうこうまうかうう村の田こ
らうくく叶韻ひうをこれをするなり
かひうとけうそこに
泊むとまけめてとよ上
もうこくも語顛倒
一まる月

国立国会図書館　タイトル『源註拾遺』　請求記号 そ-9
ガラス使用

一 なでしこのこれうら山のおくにいと
○今あふ坂かりてこのをあすよりは
秋て人こよろこぶ山のそたにいくへ月
よしるよすて物うき月しかな
一 なくくれさやもさ夜ふけぬるこゑ
○今東屋歌
かねうら山の雲ふしさふらふ
一 いくそよしえうちやまひめん
今東玄言進退あ仮の中
○仮名序を言を思へ二百八十余字
一 ○今東和名云廉頗強飯斗食肉十斤 飯音符萬反赤
伊比 名古八 作餅餌強飯私
一 えうのやうにつきあらはつきてとる
○今あえの字よの引てえ
一 それ私月ふまをとひやれあるあるあるよ
○今東後撰よ 依明朝

国立国会図書館　タイトル『源註拾遺』　請求記号 そ-9
ガラス使用

こゝに河内にあてゝもよめり

一 此の紙の事はおのれがもとめおきたるを
細光さくに用事なり

○ 今事成おくれさるゝにて
さらぬをまつそうのこゝろや

一 中比さの事

○ 今事よりこゝにかゝる
ぬまもうれしきまゝに

一 ○ 今事 ○ 今事 ○ 今事

国立国会図書館　タイトル『源註拾遺』　請求記号 そ-9
ガラス使用

此ふね迷ふまいぞ

一 なきみいくさきてゆ

○今ある桜井素丹といふ人のふるまひて同伴る
ともの古ふるとを見てまいてみ

一 くにもるめもろ

○今ある昔本よ入今たちもとる所を
あってくさくさ

一 まみくやこりなとおのを

○今東牧てこんるもて
なりこえてる

○今東原肥さをいくなつ
似られそ

一 ○つれきみっこころ

○今ある川谷のようなる
神まれほさん

一 ○今ある川谷ふるふ
いろこれれみーっ

○今ある川谷のようなる
よくれるものもの

一 ふよ記さまくる

国立国会図書館　タイトル『源註拾遺』 請求記号 そ-9
ガラス使用

一
○今之匠如身小而多永の字よい日
能よ記さそともひさ
くなや
一
○今よ字活おきよい只くそはてるかり
一
おようんすみやや
花もれもうんもみやのん
一
○昨の秋よ秋んころよりれいおそうつん
とめう秋きんとあるの石稱え
一
きやうんいうくては

○今東和名云鏡臺譜色立成云加介美この称あれ
とむしやう音よりしなれるよや今し知るつ又云
嚴器俗用唐櫛匣三字 伽賀良玖

一
うつくしきさわしめて
○今よ五葉ヤトセノカツラ九云八年兒之守生乃時從云
ゆめうつ末よいひうちとうと
一
う紀世をえおつよんん
○今よ神代紀ヨ悶熱をかつよとうう
一
そてかさて
○今よんて存てあって天阿切多なれつて兒

国立国会図書館　タイトル『源註拾遺』　請求記号 そ-9
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源註拾遺』　請求記号　そ-9
ガラス使用

紅葉賀

一 帝よりも記ると見て行く

○ 今宵記る所もとよりゆくえなき

一 おかく人の神ふるといふ

○ 入まおりしやうく〜をこの立居つきてといふ事は立居

よつゐ有るよりてもあり〜事

見作りまとなり 一五事中一

一 多らかさもうれしとも

日 立てまし君をおもふ紅の

国立国会図書館　タイトル『源註拾遺』　請求記号 そ-9

ガラス使用

一 うけてけるのつまりて
　盃
　呪咀のうちより
○あり物紀よ呪のさまいかもし
てうちよりよんるまで指の
よんうちまでも祈のさまとうちよ
事紀のことば意よりまく祈
よいかさし

一 人まいものうちく

○今東日あ紀よ間のさまをひ
時君語ることそべ人のあ紀
花いつの人はようひあんとい
えあるも

一 いつかん世よ人はてなてさ
○今あ紀

いつかでかくもてとそれ

一 ふよそ人はつんまよ

○今指細流よ記れる新后
生て頭中よ婦皇后をよそ
時かる美なひくまのう
私あれ今のことを川

国立国会図書館　タイトル『源註拾遺』 請求記号 そ-9
ガラス使用

一 たちそうせんとてかへるをみおくりて

○ 今ぬうつれぬ花 花にうつりてくるのうぐひすも

ひろにてくるのうぐひすも 伊勢もおまよ 梅のうた

いしの人々 おもとをくる恵にそ

いひそへたるを一のひろにうつしてくるべし

一 ふみよみけるくやしの

○ 今ぬける上の内にてとよくみてくる

みるく〳〵まさかるわしなる人をは

さなるぬよ世つまるもなく〳〵いそ

ゆきうなとてだうくんもの

て人やとうんてれゆてさやう

行てもるつなりこにていそけてこらるのくいそけなれ

れいそけなりなきの作をうる宝てをほけなれ

教よて無のうなのつよいおるぬやうく〳〵日をえ驚駭又

喘息といそけくこよれとこ

そよけをて

一 ぬうの女房にまれ

孟まれとの作てしんうう

○ 今ぬの女房にもれてしんうう

ぬくまれとも毛河切麻なれつ

一かくれさとにまして

○今朝さいころのことなれど

あとをそうてゆくものかれ

一ことところもしるそら工とも

央のつゆのおとをとそれ

一かりこころのとろ

川一分

○今朝何のゆめとも奉兄のあこうみのほ

新秋を愛

○今朝何のゆめとも奉兄のあこうみのほ

新秋を愛

一おそうおもとそれ思ひいでぬ　川一分

卯杖を思ひまゐらせてまゐらするおもとそれ

○今朝これ百年の

玉勝間の巻をおもひ

一そらいろ恨そうよ

細川一分

ほのおなうの松のそうあるあこうみ

○今朝これ新秋雑

知とそ思のむつなうのとを

松を恵四　侍人そ

かそうるく思しなうの中ぬあ

一
孟殆（ホトシト）也

○今物語のことをすこしのこ
うしんかりうのもつよろん
つゐなく俗よりの気よろる
みんてこてこてり

一
ぬてとしまつを

○今物語仙窟よ推のこよ禁のこよとよめり

一
おもよ

○今物語よりの気よ安措とおるなりとよめり

一
ふよいうこうこあ　注う

○今あの吋（ホト）伝ふいうこう
らてくおよなり

一廿餘年
細音よ優かり
孟ひくらあるりとよ
○今物細流よつくし為訓のようなんはことをあやり
とよ〳〵てこらおるりと

華宴

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一 弘徽殿の御そのの

○今あるは和名第十云唐韻云廊音郎 和名保曽乃止

殿下外屋也 第第十七よい細殿とゝゝり廊のごとし和

訓ほそどの

一 おくのくるゝ戸も

孟子 とにさしこめたるくらき所

○今第五第六第七よい云

枕冊子

むらさきのこまやかなるかうばしきに

ほそやかなるあやのうすものなどあてゝ

ゆかしうおかしきほどにおりたるも

又こまやかなるうすものゝ山ざくらなど

ほそくうつしたるもをかしきなどこの

一 うちなびきやうやうしなひ

○今事後稽古 中将更衣

なをいとなをめでたまふことかぎりなし

小大君集

秋ごとのいつをいつとてたのめまし

国立国会図書館　タイトル『源註拾遺』　請求記号 そ-9

ガラス使用

一 頸中珠の玉そゝめ
河不肖（スサメヌ） 玉豪

○今あふ万葉ゟ出ル

一 おくとゝもまやうざくに
細景迹

花形迹

○今按花鳥ゟ今文景迹の二字をハ形迹と
なりうる形迹を用ひ上を浮うへの浮へくこと詩文家
の秀逸を警策とゝもハ此ゟおもふへし

一 そゝうなるもの〳〵ぞも

細そゝうハ新の字なりもゝんやも

○今按ゟ新のごとくもとゝあるもおもふへし
これの枕詞つゞる音なるへくもやも

一 おほいしうます
河不祥（フサハシカラス） 日本紀

○今按ゟ紀ゟ不祥をハわろきことゝよめるゟおもふ
神代ゟあるへしとゝかり おほいしうます

古事紀ハ千戈神洗奇云

奴婆多麻能（ヌハタマノ） 久路岐美（クロキミ）祁斯遠（ケシヲ） 麻都夫佐（マツフサ）ホ登理（ホトリヨ）与
曽比（ソヒ） 流岐（オヤツ）都登理（ムカツトリ） 牟那美流（ムナミル）登岐（トキハ）婆多々（ハタヽ）藝母（ケモ） 許礼（カレ）

国立国会図書館　タイトル『源註拾遺』　請求記号　そ-9
ガラス使用

婆布佐波受　幣都那美　曽能
理能　阿遠岐美祁斯遠麻都支佐迩
遊岐都登理　牟那美流　登岐波婆
佐波受　幣都那美　曽迩奴葉宇氐
麻岐斯阿多尼都岐　曽米紀賀斯流迩
遠麻都支佐迩　登理与曽比
流登岐婆　多多藝母　許斯与呂志云云

鳥のあまをさして小舟にのりゆくとて歌
うたひさけびつゝありきけるとかや
一あるひとつくりよろめきてころぶ
細こにさゝめく女房のこゑなりしもゆかしきものゝ歌歟
一義如何

○今案これ漢文のかゝれたるを和語にて読あとのまゝにかゝれたるなるべくこそ

葵

一 [illegible]
筋異なり

一 [illegible]
桟葵

一 今案ずるに日本紀に假廃とあるは今のそれ
きかり桟葵は暗推の字なるべし

一 和名よろひ人
後撰雑四 又拾遺雑二

忠房朝臣

見えのうつよそひたるもの
一 訓てよそひのわくに
○今按和名鈔云漢書注云副車
乗也 曽閉久流万俗云
比度太万比 後
一 さてろかる車のこゝに
○今按同鈔云説文云轂 古錄反漢語抄云車
乃古之岐俗云筒 輻所渉也
一 やまあやかる所さ
花 やまのやうくさこそ
漢書集後来
綵ふ、ハ錦とも
なのやかあやもたへや紅
かるくへ
○今案こゝ川るる
のうつて紅ふとよみ
語よ今まうもあやといふ
とハあり
一 ふとうつくしびよあて
○今案ちはや記六日こと
はまて二のしるしといふ
あてよろこふ也又大鏡を引れたる

国立国会図書館　タイトル『源註拾遺』　請求記号　そ-9
ガラス使用

一 いにわかうもりにくん
何惱 先ヲ経

○今案枕ノまよくんして
以ヲそこ同じ字と云ふ同
韵ヲ通ヲて惱ハいるとよむ
ん今のうんともなる

一 書れたるものとおもふ
○今案新撰姓氏録
京狛首の条に

一 それはものゝようなる
よのひまもなくふるなり
○今案 後撰

よろづよをかねてぞ君を
寸松庵の集

一 今よりは春のまゝにも
こがくしなき物にくう

○今案 拜(ヲガム)日本紀

一 たゝくいふ
何 猛(タケクノカキ)辛

国立国会図書館　タイトル『源註拾遺』　請求記号 そ-9
ガラス使用

○今案 幸のついでに書きてよ
つゐで 日本紀は嚴矛をいふ ほことよめり 舒明紀
よめる処れは嚴のごとき更に
神なりとゐま(き)は瞋怒(いか)るのごとなる(き)
一 記もおなじこゝろ
○今案 永頼頓純 既切 此四ツ日本紀よみ
よるべきよ かゝるべくは
よは既切とうけるかよろしかるべきこと
一 うつゝなん
の(ウツシコロ)現心乃 日 現人 日本紀

孟 楠葉西宮もおなじ
○今案うつゝなるうつゝなるうつゝなる
陸奥のうつゝ山はあるなるべし
同中二
うつせみのうつゝなる妹をおきて年月経あれの
あるべきものうつゝなる現人神をいはゝ顕見蒼
生とうつゝなる中のうつゝにて
よめるは又今のこゝろや 孟津よりいへる
ことなるべきよ

国立国会図書館　タイトル『源註拾遺』 請求記号 そ-9
ガラス使用

人言乎（ヒトコトヲ）　繁三毛人髪（シゲミケヲヒト）

一

一

一

人言乎（ヒトコトヲ）　鬚（シケシ）三毛人髪（マタハ）三云々

一　ゆくりなくといふ事をかくやうにいふ人
　　あるなり　ゆくりなくといふ事をかくやう
　　にいふ人のおほくてかくいふなり　ゆくり
　　なくといふことはかくいふべきことにあら
　　ずといふ人あれどもかくいふなり

一　いでやもの
　　今物語やうにありやうにかきたるもの
　　江やなどしやうにかきたるもの
　　もやといふ疑ひをかくやうにかきたるもの
　　靈のいてきたりあふ

一　物見るといふ事をかくやうにかきたるもの
　　とやとそでのしがらみえんぼう人ハ　咲哉非
　　物見るといふ事をかくやうにかきたるもの
　　物見るといふ事をかくやうにかきたるもの
　　物見るといふ事をかくやうにかきたるもの

一（此うらうらの句かもの）
かにこそよく〳〵世のひとのこゝろ
なりぬ
○着ミスく
一宮ぬし法ゆもくよせ行（ゐる）
○今案蜻蛉り記云
一けしのゝ
○今案蜻蛉り記あるもの
一（ゐる）ものゝこゝろしらひ他
○今案うらうら照る春の
夜もうらうらと照る
百番歌合に源俊
頼朝臣
山里は人のこゝろもうらうらと
一（後）ゆきこもりて
（二八）
（日）
（日本紀）
○今案あやまりのまゝ
もくて他やまとそゝゆる
百もゝ

かつくいねのうさうしすることも
よくつまゆるをいうるれい物こと
かくとゝゝてはせるのゝゝん

一
なかめる頃て

○今あふにしめくといふもの
一
おこなしなれさのゝゝよりけるう

○今あふ三ふ勝殊異（ケケケ）こゝろとけとようそう
一
うるこそうしゝゝ

○今あふうむい注うむや
一
第四

まきあのさのゝゝこうさかるのゝ物いそまたて今ゝ侮も
いゝ一のおうるみてやくくて
一
神のうへれまのそけさうゝ

○今あ一ふまつむ山上性良の古日（ふるひ）とゝつゆくゝ
せれるるれうせるの長歌ゝ
世人のさゝしねよもしれ
中のうまれまさる白ゝれつるみる日ゝ

まきる今ゝあまゝこゝとゝ
ゝれもうらやまきんをてるあゞこゝとつ
ものうう

式なよう白髪の翁よ古日とよ
こそ一つとしつつも我思へくるくるまでを
又白氏文集哭崔児詩云 掌珠一顆児三歳
鬢雪千莖父六旬 山豈料沙先為異物 常憂吾不
見成人悲傷自断非因飲啼眼加瓦 不是塵懐抱又
空天黙依前重作鄧攸身

一 ○くるほうそうして

○今松 古今

よう花のえな山路へいんなへ帰へ

一 ○今案 玉系京傍 如此類多 此雀院沈製

一 ○今案 和名云 周易説卦云 其於木也為堅多心
師説多心讀奈
賀古古可遅

一 秋のあそれまさり秋風の

○今案 万葉巻三ヨ

うつせみの世ひつるもとあめを

国立国会図書館　タイトル『源註拾遺』 請求記号 そ-9
ガラス使用

一 [illegible]

○ 今もの叶ふ [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

○ 今もの詠ずる [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

○ 今もの [illegible]

一 [illegible]

一 いつもこれいとあり

何 [illegible]

一 こなれ〳〵

細 みのれなのこもまそなれくそ

○ 今もの [illegible]

とてものもなれおれ

こうのさ山なるそれ

一 [illegible]

○ 今もの [illegible]

おのれいくいつ 和名云 字書曰漆 須々波太奈 鼻

液也 文字集略云 楾 他禮及又他細反 俗云波奈加益 以手去鼻涕也

一 世の代り

孟 惡 サカ

○ 今案 惡のさかひ日本紀なとさうなりとあり 万葉をも
おもひくらへあり 休祥を仁徳紀より紀さうなりとよめ
るれ 吐さうにはよるへきやうもなし 又なほ孟庫に語や
なれ 惡のさかひを代るといふ事 此なほ孟庫に語や
今ここにいふ代り 神代紀より性の字を代るとよめる孔也
一 めをしかりつみ給ふを

○ 今案 今めかしきなとやうにいふ事 万葉にもあり
古人のよてふある月を云のこれなるへし
言ふとそう

一 代りはもまれみを

○ 今案 代りとは 假名といふ事 源氏にもあるへし
なりにそうといふとそうくらいの事なるへし
一 ふるよなをいふ事 万葉にもあり 細流のふる切やうなる事より転して
なりそうなる波 善上の説もあり

一

一

一

とのきてやうくさて鳥うちみれいとうみ
へとうのまゝおいいちゝそのとゝ侍るも
おもれてあり

一 みそかれ供ゝうゝ

○今もこゝそけい衣物ともいふ
施音移字示作楓
和名美曽加介 懸衣架也 俚言楽ふ俗よこゝろ
けものゝ物

一 ゝよもろうれうつまさをうゝ

○今東禮襖とやうゝよもれい衣ゝ

一 書やきあるとゝも

○今書肆川おい書ろくいふ事の
ととかり古帖ふたくるこよしと
ゝとやうゝにおれゝとるいふ
書ゝやゝとれいこゝもかくあ
集者訛転訓民訓よ

一 ゝるまよこのゝれうもうゝ書

えりよこうふまさいのこゝあてこうる
てよれゝうゝをうゝうゝまうこうゝる
ゝをとるよりしれゝまうゝの例に

賢木

一 うに世をいきおなれるんとあ
。今宵 賀恒宮よ
あ雨とみつつる山ま
枕詞
一 記こころうちこうもれまる
枕詞
一 いつにゆきこうもるん世の中よ
一 なやらいさ一ゆるゆみつ
。夕月夜 日本紀

一 ぐんとさて来のんでもを書をにうりておはそん
やしもやとうしてう年うるのうるのう
一 なわこうさ年ともいそうよ
。今宵 賀恒宮
おこうにとこうすうかくぐあるうあるかるう
枕詞
なこあうにうんれとのなんのうんのう
うんのおこうんでうよ

○今まで有りし女房なども一万をあつめ

一三ものの風ふり

○今までの宮ごろの集よりは

たれるゝ人いくそのりよこと

一をとめごろ

（ヲトメ）乙女

○今までの乙女とくゝ俗やり

名いふ（オ）のつゞて遠まわり

津（ツ）女なり清と會と通ふ

一ものゝ〳〵ふるとゝ

○今までのものゝおもしろ物こそ俗の書ぶり

このねる人おゝわりふれいもてごるとゝもくるが

おゝりふる世ふりて深氏の感覚わろくふれいもの

お人もるゝ〳〵ふなくてゆゑふしい書ぶれもんて

もてや 枕ふ書ふ物ふるものをそうふうて

衣裳のもてはやすきふりふれい

○ふるさとの乳母のそもなれふりもみまるえろ

ひて 雅正

ふりぬるて号ひもせてわくえ人てあやふ俗のてぬる

国立国会図書館　タイトル『源註拾遺』 請求記号 そ-9
ガラス使用

一　后の月心いちそめて

○今まちわびぬ年中に

のもとに井てゝわさうら

いしくめつのわしも

ん〳〵たゝしみ〳〵

もろくんえよゝて

一　かゝもしこゝにかり給ぬ

○今ゝ参後よかりて

うまつてよるう

一　ゑそんのうまはゝのハ

○今ゝまゝ〳〵

一　宵の

一　翁まつ

一　ゑりもの

一　ようあつ

○今ゝの

一　七月

一おもてのうちんと

。今ものゝ詞きん部とゝてくら

一くり今ゝもゝしてへうまて

ゝくゝゝのやゝに神楽ゝう

えうつゝきものやゐもて神うみ

ゐ里世う物思ゝとん

つゝまるゝいこしおり

もやゝ

一かつゝいゝをおゝてゝとゝゝ

。今ものゝ

ゐゝゝとゝるゝゝれゝ

一あゝゝゝゝゝゝゝゝ

。今ものゝ

一平安後よゝて行ゝゝ

寺廣敦生の俗正面照よゆ

当寺の事ゝゝ平安後期

一者とゝものゝひゝゝ

細いにゝのゝゝゝゝ

一 うらうさんそのやうに
晴 うらうさおやまるるもせやうと
○ 今ものの上の二そ(女)のよ(世)やうと
今まるの集
一 ぜよう(ぜ)ん(ん)和名とくしのうらうみ
六帖
元久ものそうもやいこうろ
一 あのうちとうろうそ
ぜうろうせう 今うとたりてよ
一 山はとにもうせうもう
○ 今まるうろうせ
一 ろうろれおうくおう
○ へうあおうくせいと
仲文うの集
あう佛ほうくせよろうろ
一 ぜうそもう人のとうするも佐

笈うろうろ

国立国会図書館　タイトル『源註拾遺』 請求記号 そ-9
ガラス使用

一 細 山さとゝんをゝゝゝ

○今案古帖は書
かてかくとかゝるこそ天皇
一
今案月のすゝ化井とうみくも
○今案ものゝ浦氏の浦のさまとうらやま
ものゝ浦氏のやうに放ちみてゝ
浦のうら今つけうら浦めくも知一放いうもれ
うらうなれく
○今案 非字乞但 神代紀下
一
いとものしくおしはかるゆゑ
○今案 古帖
何ことをあらんと問ふ
いでゆかしうするしのまひはれ人
いつゝ
一さくれ
盃さいあれともの浦や
○今案さいあれの畧かりそのなやとも

一人しまあ汲んはう〳〵

○今宵哀〳〵

夜風のあらうとの〳〵

一ちやらかなる

○今宵　細々許（サヽヤヤ）　逢初宵

一松風めう〳〵やと

○今宵　湯呑さ

所事屋

一

○今宵　湯呑さ

所事屋

一

一 ふるとりの雪をこのうれあ
花をとりつくはてるまよ百千夜とも
○ 今もまよ降くる百
八百日行濱(ヤホカユクハマ)なしよ何百
五百入とまて廬の保
船恒
郭公とりこなけらるの
時ふこうる集の歌うを
過う百の通のなうは保知加敝(チカヘリ)里とよるるとの
人とうこうとなうもの船恒も音便と思ひ得
和よりとりみてとよるふ

一 うるしかきのまくく
細花萩度のきりまて三
○ 今もまよ降ふりかり
花もりし度の木のまと
るこれまよ
一 いうこうまてう
細いかのてかくいほもいうとうてうる
○ 今もこれ六帖の歌物語のおり萬葉の
初もとのまやまそうれいもの

国立国会図書館　タイトル『源註拾遺』　請求記号 そ-9
ガラス使用

心面もよし顔をせてみるとも方なる中ものとて
（東）いつのよしてうへみるこゑ此もとするとも
一
ことわり此世のせうへ
○今あふ注よ悪のうのことせうとも
とあるの浦かりさるようのことも
須磨
一ひさけるすまのもほひみるへ
細（ヒソヘテ）叩（ヒソヘテ）河苑書そ
○今宵雲動り死そ
今こんかり（ママ）こうん又かそ
いろ〳〵さてそそ〳〵川合そ浦
ありくことのようなるもの
一
よかくれてうへ
○今あの雨よ浦かり
よれそ風

国立国会図書館　タイトル『源註拾遺』　請求記号 そ-9
ガラス使用

一 三代のうつさ
○ 今の東西（トサマニカタヲサ）日本紀
一 いへそそるうつ
○ 今もえていの
とよもる
津もいへ
一 うつむき
○ 今案ずるに
みちのくに
一 [illegible]
○ 今案ずるに
一 年月をへだてほの
○ 今もいるのみ
一 流をもとめ
○ 今も流の
一 [illegible]
○ 今案ずるに
一 [illegible]
○ 今案ずるに
[illegible]

国立国会図書館　タイトル『源註拾遺』　請求記号 そ-9
ガラス使用

○今案

一仁明天皇ノ御時ニ

○今案 源氏三 長谷雄

新古今雑下

一
○今昔物語ニ見ユ

一
○今案本朝文粋第十一重陽後朝同賦秋雁
檐聲来應製詩序 菅家云燵雁者月令之賓也
檐聲者風窓之聽也鴻物以感非棄鏡湖之波
馳心思只望銀漢之岸 又後江相公同賦寒雁
識秋来應製詩序云驚音似機暗破霜閨之睡寒

聲亂檐忽伴漢舟之遠

一
○今案つばくらめのつばくらめやつばめのそらをかけるなどいふ
やうの名の同じきやうなり

一
むばたまのよるのころもをかへしてはひとりねたりとおもふらめやも

一
○今案日本紀
河考辭 日本紀
○今案日本紀の見てするまで
一
和名抄あしかもとしてあり

かいうらくてゆつるなるうん

○今案いそふのもの

をとゝ海ふかなり

一月のうん

○今案これなもとゝ

ことなもとつなとをゝ

一くいくてゆるす

盃苦痛なり

○今案屈し痛うてやるう

一いとおぼくなる名をゝ

○今案

一いるうのあうとゝ

○今案 案蓋

十月の雨ふうするあ

一うりるくうるみあうるいあ

○今案 和名第十云第名苑

字苑云膺 及和名久佐久良 菊蒿蒜藏也いあとゝ

いあは上の国のなまりやう

国立国会図書館　タイトル『源註拾遺』　請求記号 そ-9

ガラス使用

のるもあつくし友なしあるくとろよ門つけやる
まと歌をとしせよ至二るほ侍れ歌詠ん
多きたらよ詞鶴之鳴くとうくるなりて
ありとうんてうちうつくしハ多頭多臥志とまれい
鶴之鳴（メツガナキ）と云と也と多頭我奈岐と云べきに都のつる
を男もれいもろさなをとを書あてよめるなり
るたるさをハ二多多鶴（メヅ）すと多頭寸と多度伎（タドキ）
まおさてつをと濁つをとを清りう多頭加奈岐と云
ありいろきるに鶴之鳴とそうとうつく多
都我とかれた或詠がいかいのやもありなり

一いとせいくやう
細
哲学そのほか人よりまさりたるとも
○今の時分於き高野ようこと人とも
なれさらんとあらいかの孟津よハ物しくへ人とのまさ
詞ありさまもよりも

一せんてやハりを
○今の和名云本朝式云軟障一條　蜻蛉日記よゐぜ
やうとうまり

一詞りかきあとろみりさり
○今の俚馬東

国立国会図書館　タイトル『源註拾遺』　請求記号　そ-9
ガラス使用

いそうつやかなる門ぬりこめて
ものふかんとてうちとざしたる
はうこんしてそこに
このまつをよめり
特に門ぬりこめたるまつをよめる
これと古歌よに詞ちがへるのみにて
あり此ごろいみじくおやまれて
より出まうでる 山谷詩云帰庵扉障小雨到
もろこし
一波ていふてうらいにて
○ 雪の中に死る歳の事を雪の事と歳雪のすさまじきを
瞋恚念怒等のことをいふことあり
怒潮怒浪などいふたぐひ
一うみのおくにふねをうかべて
○ 今案 第七
一神なりひめく
○ 今案 雷 ヒカリヒラメク 日本紀

国立国会図書館　タイトル『源註拾遺』　請求記号 そ-9
ガラス使用

そ
7
9

一かくて世そうつきめるあやしくなりぬる

○今案日本紀第九神功皇后紀云新羅之建國以
来未掌聞海水凌國若天運盡國為海乎

特別
そ
7
9

国立国会図書館　　タイトル『源註拾遺』　請求記号　そ-9

ガラス使用

ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『源註拾遺』請求記号 そ-9